



森は海の恋人\_対談模様



文化・環境活動家

我が子のため社会を動かそう  
セバン・カリス・ススキ

1992年にブラジルのリオデジャネイロで開かれた地球サミットに、12歳の私も参加した。各国の代表と直接話をし、メッセージを伝えることができた。昨年、世界がリオに再び集って「国連持続可能な開発会議」(リオ+20)を開いた。私もその中にいたが、持続可能な社会の実現にはまだほど遠い。この20年、このような会議に参加すればするほど、持続可能性に対する政治や社会の力が失われているように感じた。政府のトップに任せている世界は変わらない、自ら解決策を見だし、実現するしかないと感じ、自分の足元から、お互いに協力し、話し合えるほかのネットワークなどといっしょに取り組む市民参加に注目した。だが、市民の参画だけではパラダイムシフト(考え方の大転換)は実現しなかった。権力者の最重要課題は相変わらず経済成長だ。人類の存続を可能にしてきた地球環境のバランスを維持するために、今、何より必要なのは経済的、社会的パラダイムシフトだ。子どもに対する親の愛が社会を変える力の源泉になる。私は1歳と4歳の男の子の親になり、親が子どものためなら何ごともいとわぬことを知った。私たちが行動を起こさなければならない最大の道徳的責任は、子どものため、未来のため。愛の力を活用し、地球の現状に照らして自分の選択枝を決め、恩恵と責任をしっかりと関連づけて考える社会に転換しなければならない。

12歳の時にリオ地球サミットで演説し、有名に。カナダの環境活動家で日系4世。

Dear Michi

高校時代を振り返るとNZでのたくさんの思い出が蘇ります。最初は言葉の違い文化の違いに戸惑うことばかりで挫けそうになったり、親を離れた寂しさを感じることもありました。それまでの私はいつも完璧を求め、できないと嫌になり逃げてしまっていました。しかしNZでは自分に出来ないことのほうが多く、人に頼らなければいけない部分がたくさんあります。そして目の前から逃げず自分と向き合える環境があります。それによって、人に頼っていい、出来なくてもいい、もっと自分らしく居てもいいんだと思えるようになりました。また日本には決して経験することのできないNZの景色、食事、言葉、人と出会い、文化など様々な新しい経験で多くの刺激を受け、とても成長できたと思っています。高校時代からなんとなく看護師を目指していましたが、テレビで小児科病棟の医療にスポットを当てた放送を見て、子供たちが入院中も退院後も希望をもって生きていくサポートする、小児科の看護師はとても魅力的に映り、慶応大学看護学部に入学を果たしました。そして4月から小児専門病院で勤務することとなり、今緊張とともに高校時代に憧れた看護師像に自分が少しでも近づけるよう全力で子供達と向き合い、一人でも多くの子供たちが笑顔で退院できるようサポートしていけたらと思っています。最後になりますが、高校時代のNZ留学経験は私の人生にとっても大きな影響を与え、たくさんの学びとともに自分の考え方や価値観を変えてくれる世界がありました。そして今では当初感じた寂しさや戸惑いでさえも、全て人生の糧になっていると思えるようになりました。これから社会人としてまた新しい道を歩んでいきますが、NZでの経験を胸に頑張りたいと思います。

古賀英里子 (元 CASニュージーランド留学生)



シーカヤックによる環境教育

難波三津子様  
お元気にご活躍のことと思います。  
昨年12月にルネサンス・アカデミーの桃井社長さんと、舞根にお越しいただきました際に工事が進んでいました、NPO 森は海の恋人の舞根森里海研究所は2014年3月末に完成し、多くの皆さんに利用いただき、森から海までの多様なつながりの教育と研究が進められています。

同NPOの畠山代表は、ますますご活躍で、この間の活動が評価されて、京都府が地球温暖化京都会議を記念し創設した「地球環境の殿堂」入りが決まりました。これまで、マータイさんやレスター・ブラウンさんなどが殿堂入りされています。

私の方は、三陸と有明海を往復しながら、水際の再生こそこの国の未来、とりわけ次世代が心豊かに暮らせる確かな未来にとって基本的なものと考え、地域に根ざした取り組みと全国的世論形成の両面を進められればと願っています。この4年間の有明海での取り組みを本「森里海連環」による有明海再生への道一心の森を育む(花乱社)を刊行しました。

「海廻路」は私の友人で高知大学名誉教授の山岡耕作さんと、世界的海洋冒険家の八幡暁さんが主宰するシーカヤックで日本各地の漁村を巡り、海と共に生きる人々の暮らしや思いを見聞し、この国のいく末を考えようとする取り組みです。

この5月15日に難波さんも関わっていらっしゃる名取市閑上げ浜を出発し、宮城県の海辺の12漁村を巡り、30日に無事に舞根湾にゴールインしました。

震災の傷跡、復興の現実、海と共に生きる人々の思いなど、多くのことを学びました。今後、「海廻路」を全国展開する計画ですが、同時に地域に根差した取り組みを、地元の高校生を主な対象にシーカヤックによる水辺の旅や観察に誘い、次世代につながる輪を広げていこうと考えています。

八幡さんは、石垣島を拠点に活動を進められていましたが、都会の人々にこそ自然と本気で「遊ぶ」、とりわけ東京湾で本気で遊ぶ流れを生み出す活動を本格的に展開するため、この1月に拠点を逗子市に移され東京の教育関係の方との連携を模索し始めています。

難波さんの海外ネットワークが日系のみなさんともつながり、広がりつつあるご様子で何よりです。NPO 森は海の恋人や森里海連環は日本の「知恵」を海外に広げ、この国の進むべき道を次世代が心豊かに暮らせる方向に転換させる上でも、そのような皆さんとのつながりは、非常に大事なことと思います。

田中 克  
京都大学名誉教授、NPO 法人森は海の恋人理事

¡Hola! Letter from Paraguay

Dic. 2013 No. 5 Eri Abe

Dear Michi

来月3月の22日にパラグアイのシウダーデルエステという市の日本語学校で震災の講演会の講師を依頼され、出張に出る予定です。震災後はエステ市を始め、近隣のイグアスの農協等が、豆腐100万丁分の大豆100tと加工・輸送との経費1,000万円以上を岐阜県の取引先を通じて送ってきた経緯もあります。そのことへの感謝の気持ち、そして震災を風化させないためにも、今自分にできることを精一杯任地の子供たちに伝えてくるつもりです。



阿部江里 宮城県農業高等学校教諭、JICA ボランティア隊員

日系パラグアイ大使の呼びかけで被災地を視察した大使グループ

2014年3月22日(土)～3月23日(日) ラテンアメリカ\*カリブ海大使会による被災地視察



Support Our Kids in Toronto

日系人の皆さんと交流

再生への提言 東日本大震災3年 畠山重篤

豊かな海を作るために、全国に広がった、山に木を植えて森を守る運動を続けて26年になる。私が牡蠣を営む宮城県仙沼市の海は、東日本大震災でいったんは海辺に生き物が全くいなくなった。「海は死んだ」と心配したが、森から海へ供給される鉄分などの養分で見事に再生し、カキやホタテの水揚げも元に戻った。海底は今、昆布やワカメなどの海藻でジャングルのような。震災の年も植樹祭を休まず、海と川と森を地域全体で守ってきた私たちの行動は正鵠を射ていたと思う。問題は地盤沈下だ。震災で海辺の土地は1メートル沈み、満潮になると文字通り潮が満ちてしまう。そんな地域が岩手から福島まで何百キロと続いていて、漁船を着ける岸壁や、水産物の処理や加工をする作業場などの復興が、なかなか進まない。これが整備されれば、漁業者は自力で立ち直っていける。公共事業をするなら、こうした海との接点の土地について、かさ上げなどの対策を急いでもらいたい。三陸地域は津波に繰り返し襲われてきた。それは仕方がない。海が怖いとか津波を恨むという考えはない。どんなに巨大防潮堤を造っても、あのすさまじいエネルギーの前では残念ながら役に立たない。それよりも避難路や逃げ道を整備してほしい。とにかく高い所に逃げて、命さえ助かれば、何度でも再建できる。それが私たちの歴史だった。復興には時間がかかる。全部をすぐやれと言っても無理。自治体が「早く予算を使わないと引き揚げられてしまう」と考えてしまい、結果的に無駄遣いをしないように、国は10年単位ぐらいの長期的視野で復興計画を実行してほしい。そうすれば地域でお金も回るし、雇用問題も緩和される。そのうち本業も回復してくる。世界中から支援をいただいたので、今後は「自然をきれいにすれば飯が食える(=経済的に成り立つ)」という考え方を世界に広めて恩返しをしたい。これからも山に木を植え、森を守って海を豊かにする活動を続けていきたい。

NPO法人森は海の恋人理事長、2012年 国連フォレストヒーロー(森の英雄)に選ばれる